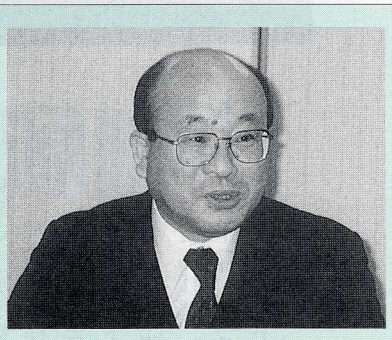
学長インタビュー No.20

これからの広大に求められるもの ハードの充実からソフトの充実へ



早くも木枯らしの吹き始めた晩秋の候、学長を訪ね、広大が当面する諸問題についての学長のお考えを伺ってみました。聞き手は岡本・森の両広報委員。

広報委員＝インタビューの前に、嬉しいニュースをご報告いたします。わが「広大フォーラム」は、昨年度に引き続き国立学校等優秀広報紙コンクールで最優秀賞を受賞いたしました。この受賞には「学長インタビュー」の親しみやすい紙面づくりもかなり貢献をしているのではないかと思います。では、今日もどうぞよろしくお願いいたします。

まず、統合移転以来、学生の自殺者が急増していると言われていますが、学生の心のケアの問題について考えておられることがありましたらお願いします。

学長＝広大の環境整備も、ハードの面ではすでに日本一と誇れるくらいに充実してきている。これからはソフト面の充実を図らなければならないが、なかでも学生・教職員の心のケアの問題は重要だと考えている。特に学生の自殺の急増は大学として早急に取り組まなければならない重要な問題だ。

私もこの問題には以前から心を配ってきた。さし当たりは、保健管理センターのより一層の整備・充実を図らねばならないが、重度のうつ病などカウンセラーだけでは十分に対応できないケースも考えられる。そこで精神科の専門医を配置することも検討している。

広報委員＝どしゃぶりと言われた昨年の就職戦線にもようやく薄日がさしてきたと言われておりますが、日本経済も安定成長の時代に入り、求人事情も明るい見通しはありません。

文系と理系では就職相談も異なると思いますが、学長のとっておきの秘策がありましたらお伺いしたいのですが。また、学長からみた広大生像をお聴かせください。

学長＝広大を愛する者の一人として、私は広大の出身者が社会のさまざまな分野で活躍してくれることを願っている。そこで、従来から私学に比べて立ち後れがちであった就職対策を充実させるために、学生部もこの問題に積極的に取り組んでいる。

ただ、就職問題は意欲のある優秀な学生を育てることが大切であり、そのためには全学の教職員が一致協力して、この問題に真剣に取り組むことが不可欠だと考えている。

私も民間企業などさまざまな分野の人たちと話しをする機会があるが、その際に、広大生のイメージとしては「まじめで優秀ではあるが、おとなしくて、これといった特徴がない」といった評価を、耳にすることがよくある。

これから広大ブランドのイメージを高めるためには、たとえば外国語を二か国語くらいマスターするなり、情報処理(コンピュータ)技術をマスターするなり、社会の各分野で即戦力として活躍できるような学生を育てることがますます重要になると思う。

広報委員＝本部庁舎をはじめ国際協力研究科や放射光科学研究センターやベンチャー・ビジネス・ラボラトリーの建物が立ち上がっております。パークユニバーシティとして今後の整備が楽しみですが、学長としては特にどのような点に力を入れていくご予定ですか。

学長＝計画的な木の配置を考えている。可能なら広島大学と国際交流をしている大学から木を頂いて、留学生や学生の憩いの場となる「国際の森」を作りたい。また、中央図書館前にメタセコイアを植えて広場を整備し、オープンスペースとして利用できるようにしたい。

広島県の砂防課と広島大学の環境保全委員会とが連絡を取って、山中池周辺や角脇川水域、ぶどう池など、自然の生態系を残しながら整備していく方針だ。

広報委員＝キャリアアップを目指す社会人のための社会人教育や生涯学習教育は文部省の方針でもありますが、十八歳人口の減少に伴い、今後ますます地域、社会に開かれていくことが求められています。この点について、学長はまず何から手をつけていこうと考えておられますか。

学長＝テレビ・ラジオの放送を使った公開講座やリカレント学習は、すでに長年行って好評を得ている。今後は、専門職業人の育成を目的とした生涯学習型夜間大学院の設置も検討することになるだろう。

日時　平成八年十一月十九日(火)
場所　東広島キャンパス

学長執務室